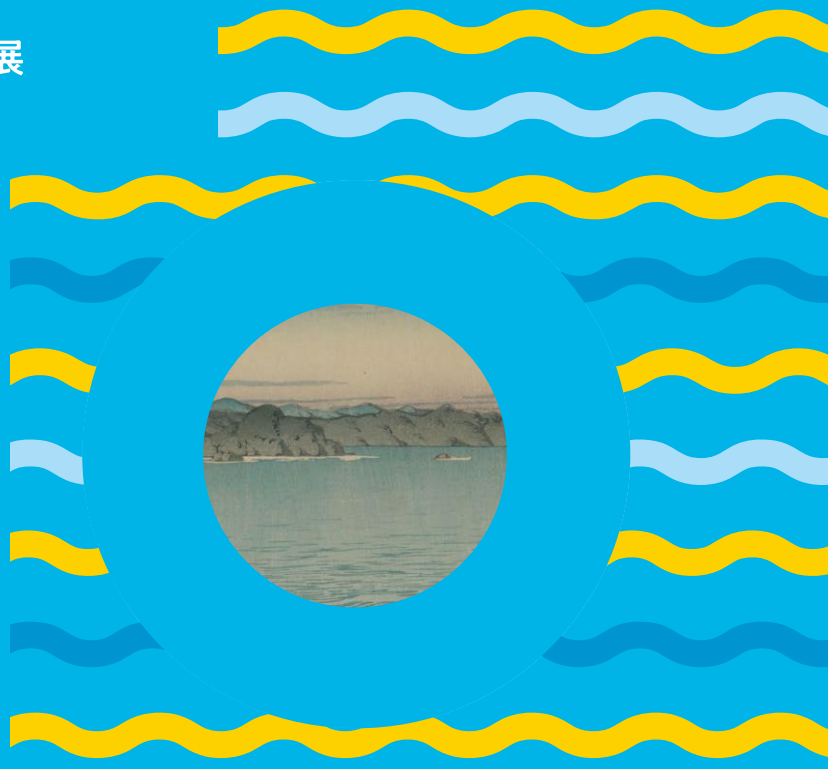
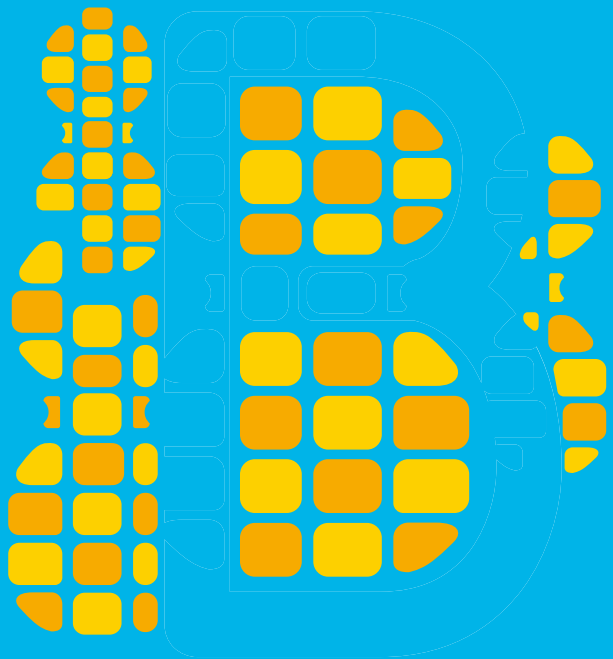


千葉県誕生 150 周年記念事業

川瀬巴水《房州大海》(部分) 1925(大正14)年、紙・木版、36.1×23.8cm

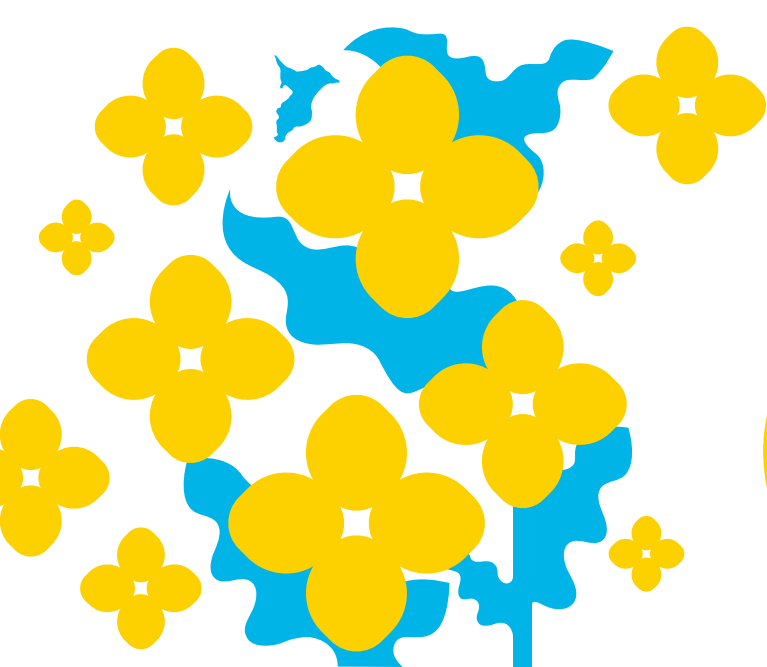
房総の海をめぐる光と影とアート展



K U W A K U R O P Y O T A

クワクボリョウタ コレクション・ネット

COLLECTION NET



千葉県立美術館
コレクション

描かれた房総

2023.7.19 [水] - 9.18 [月・祝]

開館時間 | 9:00-16:30 (入場は16:00まで) ※初日のみ10:00開場

休館日 | 月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)

入場料 | 一般 500円(400円)、高校・大学生 250円(200円)

()内は20名以上の団体料金、中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

※最新の開館情報については、当館ホームページでご確認ください。

主催 | 千葉県立美術館

後援 | 朝日新聞社千葉総局、産経新聞社千葉総局、東京新聞千葉支局、
日本経済新聞社千葉支局、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局、
株式会社千葉日報社、ベイエフエム、株式会社ジェイコム千葉、
千葉テレビ (順不同)

特別協力 | 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

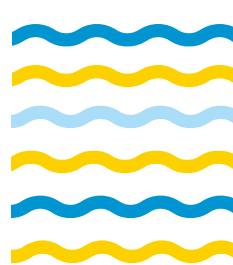
海と日本
PROJECT

千葉県立美術館

房総の海をめぐる 光と影とアート展

「千葉県」誕生から150周年を記念した2つの展覧会。

「海」を起点に、千葉県をテーマにした現代アーティストによる新作と、房総ゆかりの収蔵作品展で、「千葉県」の魅力を再発見します。



クワクポリョウタ コレクション・ネット COLLECTION NET

クワクポリョウタは、電子機器をはじめ様々なメディアを使用して作品制作を行うアーティストです。2010年に発表した光源をつけた鉄道模型によるインスタレーション作品《10番目の感傷(点・線・面)》以降、光と影によって鑑賞者自身が内面に体験を紡ぎだす作品を展開しています。

本展では、クワクポによる房総の海をテーマとした新作を発表します。作品は主に2部から成り、前半では、クワクポが千葉県のマスコットキャラクターであるチーバくんと掛け合いをしながら、地理、自然、産業、文化等、多側面から千葉県をリサーチします。地球磁場(地磁気)が逆転した「チバニアン」の地層、実測による正確な日本地図を完成させた伊能忠敬、千葉の花である菜の花や圧倒的な生産量を誇る落花生など。千葉県を象徴するモチーフは何か、ひとつに定めるのはむずかしく、千葉県の多面性を物語ります。クワクポは、過去の芸術家の手法に倣いながら様々に習作を重ね、その習作とプロセスを展示します。後半では習作を基に、千葉県の海から想を得た最終的な作品を展示します。

AIの発達した今日では、全てが検索・生成可能となりつつあります。テーマに対して呻吟し、過去の芸術家の業績を執拗に模倣しながら創作を試みるクワクポの姿は、ユーモアを含みながらも、AIの時代における芸術家の新しい創造とは何かを鋭く問いかけるものとなります。

クワクポリョウタ

1971年栃木県生まれ。筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻を修了後、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーを卒業。1998年、明和電機との共作《ビットマン》を発表し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。2010年第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞(《10番目の感傷(点・線・面)》)、2011年芸術選奨新人賞(メディア芸術部門)を受賞。また、山口レイコとのアートユニット、パーフェクトロンとして「デザインあ展」(2018年、富山県美術館ほか)の展示構成などを手がける。現在、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授。



クワクポリョウタ《LOST #15》2017年 撮影:山口 伊生人



ジョルジュ・ビゴ《稲毛の夕焼け》
1892-97年頃 油彩・板 20.0×29.0cm



寺田政明《犬吠灯台の見える外川港》
1985(昭和60)年 油彩・板 89.0×180.0cm



椿 貞雄《鋸山から見た房総半島》
1948(昭和23)年 油彩・キャンパス 60.6×73.0cm

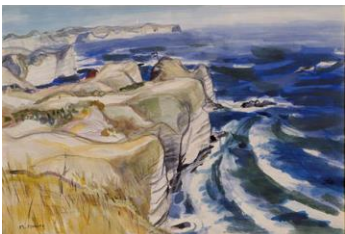
描かれた房総

東側を太平洋、西側を東京湾と海に囲まれた房総半島には、その風光明媚な景観と都心に近いという地の利から、古より多くの文人墨客が訪れました。明治時代に入り、大原まで鉄道が開通すると、より多くの画家たちが房総を訪れるようになり、温暖で海と山のある景観は絶好な写生地として注目されました。

今回の展覧会では、当館が所蔵している約2,800点のコレクションの中から、房総の海を様々な角度から表現した作品を中心に、時代とともに変貌を遂げた県内各地の景観を描いた作品と写生地周辺の現在の写真と併せて展示します。



小堀 進《花と海》
1974(昭和49)年 水彩・紙 53.0×73.0cm



富田通雄《外房鞆原》
1964(昭和39)年頃 水彩・紙 37.0×55.0cm



前嶋 実《九十九里初夏》
1988(昭和63)年 油彩・キャンパス 112.0×162.0cm

6点とも千葉県立美術館蔵

関連イベント

アーティストトーク

「千葉の海、創造の海」

登壇者:クワクポリョウタ

日時:8月12日[土] 14:00-15:00

会場:千葉県立美術館 講堂

定員:180名

聴講無料、先着順(当日13:30から受付)

講演会

「描かれた房総の海をめぐる地理の旅」

講師:石毛一郎(千葉地理学会会長)

日時:7月29日[土] 14:00-15:00

会場:千葉県立美術館 講堂

定員:180名

聴講無料、先着順(当日13:30から受付)

館長によるギャラリートーク

8月13日[日] 13:30-

8月27日[日] 13:30-

参加無料(入場料は必要)、事前申込み不要

学芸員によるギャラリートーク

7月22日[土] 11:00-、13:30-

8月19日[土] 11:00-、13:30-

8月26日[土] 13:30-

参加無料(入場料は必要)、事前申込み不要

※関連事業の内容や日時は都合により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

詳細は決定次第、当館ホームページなどでお知らせします。



交通案内

電車・モノレール

JR京葉線または千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車 徒歩約10分

自動車

東京方面から | 東関東自動車道「湾岸習志野」IC.から約20分

成田方面から | 京葉道路「穴川」IC.から約20分

東金方面から | 千葉東金道路「千葉東」IC.から約20分

館山方面から | 京葉道路「松ヶ丘」IC.から約20分

※駐車場無料(78台うち2台障害者用)



CHIBA



千葉県立美術館

〒260-0024千葉県中央区中央港1-10-1

TEL 043-242-8311

http://www.2.chiba-muse.or.jp/ART/

